

「忍耐・鍛錬・希望」

大阪高体連柔道専門部
部長 小寺 建仁

2020年2月頃より猛威を振るった新型コロナウイルス感染症について、約3年の月日が経ち、ようやく大阪府はじめ、全国的に感染者数の減少傾向が見え、政府による行動制限も緩和され、以前の日常生活、学校生活に戻りつつあり、心から安堵しているところであります。しかしながら、この間を振り返ってみますと、生徒の皆さん、保護者の皆様、柔道の指導に携わる方々はじめ、学校関係者の皆様にとっては、このパンデミックを乗り越える体制で挑むとはいえ、今まで経験のない一斉休校、入学式や卒業式、文化祭や体育祭、また修学（研修）旅行等の中止や縮小、そして誰もが楽しみにして、目標を掲げ励もうとしていた、クラブ活動の制限や大会の中止等、辛く悔しい経験を強いられ、心を痛められたかと思えます。

次の文章はカトリック大阪教区大司教また枢機卿（2021年1月現在）をお務めされている前田万葉氏が近藤誠一氏（元文化庁長官）との対談（「近藤誠一全集Ⅰ」より抜粋）で語られたものです。

「聖書の中にも苦難は忍耐を生み、忍耐は鍛錬を生み、鍛錬は希望を生むという言葉があります。ですから苦しむほど忍耐力も強くなる。そしてその忍耐力が強くなればなるほど自分が鍛錬出来て、そして力が湧いて希望につながっていく。（中略）希望は決して私たちを裏切らない。欺くことはない。だから、そういう生き方をして欲しい。」

この前田氏の言葉通り、私たちは3年間というコロナ禍の中、何かと制約、制限を強いられ、不安と心配が絶えない、誰もが経験したことのない生活を通して、忍耐を経験し、その経験が鍛錬となり、そして成長を生み、希望という、新たな目標に向かって挑戦することの大切さを学んだように思います。

本専門部としても、この3年間の経験をポジティブに捉え、関係各位と協力、協働の下、柔道の本質（「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。その修業は攻撃防禦の練習に由って身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を體得することである。さうして、是に由って己を完成し世を補益するが柔道修行の究竟の目的である」）を多くの生徒の皆さん、保護者の皆様に伝えることに努力することはもちろん、柔道部員として日頃練習やトレーニングに励んでおられる皆さんにとって、安心安全で、成果を思う存分発揮できる体制、また大会運営に努めてまいりたいと思えます。

最後に、今年度の本専門部の事業が安全に滞りなく実施されることを願い、本府における高校柔道の発展を祈念して巻頭のご挨拶といたします。